

帯 広 市 文 化 賞
帯 広 市 文 化 奨 励 賞
帯 広 市 功 勞 者
帯 広 市 教 職 員 功 勞 者

昭 和 四 十 九 年 度

受 賞 者 紹 介

帯 広 市
帯 広 市 教 育 委 員 会

帯広市文化賞受賞者



小 林 正 雄

1. 永年にわたり、郷土史の著述ならびに編纂、執筆につとめられ郷土文化の発展振興に寄与した。
2. 20年間一貫して、帯広市社会教育叢書の編纂につとめられるとともに、故吉田巖翁の文業の完成に貢献した。
3. 帯広市史編纂委員をはじめ、多くの郷土史研究会等に所属し指導的役割を果たすとともに、文学・美術等各種文化団体の育成発展につとめた。

- 参考
1. 帯広市史編纂委員
 2. 帯広市図書館運営協議会々長
 3. 十勝郷土室運営委員
 4. 市民文芸編集委員
 5. 市民劇場運営委員
 6. アイヌ古典芸能保存委員会々長
 7. カムイ・トウ・ウポポ保存会々長
 8. 吉田巖遺稿保存委員会々長
 9. 十勝郷土研究会々員
 10. 北海道史研究協議会理事

- 著書 「帯広市史」(昭和35年刊)
「大正村史」「川西村史」(昭和39年刊)
「帯広商工会議所50年史」(昭和46年)
「藤丸70年のあゆみ」(昭和46年)
- 編著 帯広市社会教育叢書(帯広叢書)
第1巻「愛郷誌料」(昭和30年)より
第18巻「書翰自叙伝拾遺」(昭和49年)まで

帯広市文化奨励賞受賞者



帯広アドニス
少年少女合唱団

1. 「サイロの会」の少年少女合唱団を前身とし、音楽的に高い次元をもとめ活動をつづけ音楽を通じて文化の振興に貢献している。
2. ブルガリヤの子供のうたを訳し、広く日本中に発表紹介し、日本の児童合唱作家に大きな影響を与えている。

- 参考
1. 昭和35年 帯広少年少女合唱隊として誕生
 2. 昭和44年 サイロの会少年少女合唱団として独立
 3. 昭和47年 帯広アドニス少年少女合唱団と改名
 4. 現在団員51名

- ブルガリヤ国立ソフィア少年少女合唱団と4回の共演
- チェコスロバキヤ少年少女合唱団、スイスの子供と共演
- ブルガリヤ、チェコ各合唱団指導者より、N児、西六、静岡と並ぶトップレベルの合唱団との評価をうける。
- 日本の子供のうたの録音、ラジオ放送

帯広市文化奨励賞受賞者



帯広青少年 リードオーケストラ

1. リード楽器を主体とした、独自編成のアマチュア・オーケストラとして青少年に音楽を通じて、豊かな心を育ててきた。
2. 昭和37年発足以来、数多くの演奏活動を行ない、特に音楽的に恵まれない地域における演奏会を積極的に行なうなど、本市をはじめ十勝文化の振興に貢献している。

- 参考
1. 昭和37年 帯広少年少女合奏隊として誕生
 2. 昭和48年 帯広青少年リードオーケストラと改名
 3. 現在団員56名

- 第1回日本アマチュア・オーケストラフェスティバル参加（豊橋）
- 市民音楽祭、市民劇場フェスティバル労音演奏会の出演
- 各施設および辺地演奏活動の実施
- テレビ、ラジオ等の出演
- 日本アマチュア・オーケストラ連盟加盟（23団体）